

日本児童英語教育学会（JASTEC）研究紀要 投稿規程

1. 『日本児童英語教育学会研究紀要』（JASTEC Journal）は、幼児・児童を対象とする英語教育に関する査読付き学会誌である。
2. 投稿は会員に限る。ただし共著の場合は筆頭者が会員であればよい。
3. 投稿論文等は未発表のものに限る。ただし投稿する論文の内容が既に口頭発表された研究と同一である場合には、投稿の際にその旨を明記すれば審査対象となる。
4. 論文執筆にあたって実験や調査を行う場合には、対象者や参加者（以下、研究協力者）が何らかの被害や不利益を受けないように、十分に配慮した上で実施しなければならない。また、研究協力者（あるいはこれを保護する立場にある者）に対して、実験や調査の趣旨に関する説明を十分に行い、事前に承諾を得ておく必要がある。
5. 統計処理を用いた論文の投稿にあたっては、必要に応じて統計の専門家にチェックを依頼すること。
6. 投稿に際し、論文の体裁は以下の通りとする。体裁に不備がある場合には論文は受理しない。投稿論文は、原則として、Microsoft Word で作成し、フォントの種類とサイズについては下段の 7. と 8. に従う。原稿の分量は、和文、英文ともに、図表、注、引用文献、資料など全てを含めて A4 判で刷り上がり 16 頁以内とする（なお、冊子体は B5 判であるため、原稿は最終的に縮小される）。ページ設定については下段の 12. を参照のこと。ただし、本学会調査研究プロジェクトチームの論文など、編集委員会が特に必要と判断する場合には、それ以上の文字数になることを許可することもある。
7. 投稿論文の表題、著者名と所属は日本語と英語で併記する。和文原稿の場合には、日本語の表題（太字、14pt）、著者名と所属（12pt）の下に、英語の表題、著者名と所属（12pt）をつける。英文原稿の場合には、英語の表題（太字、14pt）、著者名と所属（14pt）の下に、日本語の表題、著者名と所属（12pt）をつける。
8. 本文および図表のフォントについては、日本語は MS 明朝体、英数字は Times New Roman を用いる。フォントサイズは、和文原稿は 10.5pt（英数字も同様）、英文原稿は 12pt とする。図表については、和文も英文も 9pt まで下げることができるが、原稿が縮小された際に小さくなりすぎないように注意すること（上項 6. 参照）。
9. 算用数字については、桁数にかかわらず半角のアラビア数字（例：0, 1, 2, 3）を用いる。
10. 必要に応じて図や表を用いることができるが、それぞれの図や表に、表題と通し番号をつける。なお、表題は左寄せで、図または表の上につける。フォントの種類とサイズは上項 8. に準じる。
11. 必要に応じて本文のほかに、注、引用文献、資料をつけることができるが、それぞれは本文→注→引用文献→資料、の順で記入する。注については、本文中の注を付す部分に 1, 2, 3, ... の数字を上付き文字でつける（例：外国語活動¹）。なお、注は必ず本文の該当部分と一致させること。

12. 投稿論文は以下の書式にしたがってフォーマットすること。
1行あたりの文字数：全角で40文字，半角で80文字
1ページあたりの行数：36行
余白：上35mm，下30mm，左30mm，右30mm
13. 日本語の句読点は、「，」と「。」を用いる。
14. 各章には以下の要領で，太字（ボールド）・半角で番号を付す。
 - 1.
 - 1.1.
 - 1.1.1.
 - (1)
 - (2)
15. 文章や図表等を引用する際に，著作権に関する手続きが必要な場合には，執筆者の責任において適切な手続きをした上で引用しなければならない。
16. 投稿原稿には，ページ番号挿入機能を用いて，各ページの上部・右側にページ番号をつける。
17. 以下の点については，American Psychological Association（以下，APA）の様式（Publication Manual of the American Psychological Association, Seventh Edition）に従うことを原則とする。
 - ・本文中の引用方法
 - ・統計結果の記述の方法
 - ・引用文献の表記方法（次項を参照）
18. 引用文献の筆記方法については，英文の場合にはAPAの様式に準拠し，以下の通りに行う。
 - (1) 引用文献は，日本語のものを五十音順にまとめて先に置き，そのあとに，英語のものをアルファベット順にまとめて置く。英語の場合はAPAフォーマットに従う。
 - (2) 筆者名は，日本語の場合も英語の場合も，姓，名の順に記し，アルファベット順に列挙する。英語の場合は，姓の後にコンマを打ち，名を頭文字のみで記入しピリオドを打つ。
 - (3) 出版年は，筆者名の直後に，半角の（ ）で囲んで記入する。なお，（ ）の直後にはピリオドを打つ。
 - (4) 日本語の論文名は「 」で囲んで記入する。
 - (5) 日本語の書籍名は『 』で囲んで記入し，次に出版社名を記入する。
 - (6) 日本語の雑誌名は『 』で囲んで記入し，次に巻数や号数等を記入する。
 - (7) 英語の論文名は括弧等をつけずに記入する。
 - (8) 英語の書籍名は斜字体で記入し，次に出版社名を記入する。
 - (9) 英語の雑誌名は斜字体で記入し，次に巻数や号数等を斜字体で記入する。
 - (10) ページ数は45-56. など数字のみを記入し，最後にピリオドを打つ。
 - (11) 英語の主題（副題）の大文字と小文字については，論文の主題（副題）・書籍の主題（副題）とも最初の単語だけを大文字で書き始め，そのあとの単語は小文字で書き始める。ただし，英語のjournal類については，全ての単語を大文字で書き始める。
 - (12) 同一著者による同年の出版物については，a, b を付す。例：山田太郎 (1978a).
 - (13) 新聞を引用する場合には，新聞の名称と日付を記入する。

- (14) インターネット上のホームページを引用した場合には、「ページ名」『サイト名』URLの順に記載する。URLのハイパーリンクは削除する。
- (15) 1名または2名以上の編者によって編集された著書の場合には、編者名のあとに(編)を付す。なお英語の場合には、編者が1名の場合には(Ed.)、2名以上の場合には(Eds.)を、編者名のあとに付す。
- (16) 引用文献に関する具体的な表記方法については、以下の例を参照のこと。

[例]

後藤典彦 (1999). 「横浜市立小学校『国際理解教室』の現在: 『総合学習』への扉は開かれた」『英語教育』10月号, 26–29.

樋口忠彦・金森強・國方太司 (編) (2005). 『これからの小学校英語教育—理論と実践』研究社.

松川禮子 (2004). 『明日の小学校英語教育を拓く』アプリコット.

文部科学省 (2013). 「平成24年度『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』に係る状況調査」の結果について『文部科学省ホームページ』
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1332638.htm

Ellis, R. (1985a). Sources of variability in interlanguage. *Applied Linguistics*, 6(2), 118–131.

Ellis, R. (1985b). *Understanding second language acquisition*. Oxford University Press.

Lantolf, J. P., & Appel, G. (Eds.) (1994). *Vygotskian approaches to second language research*. Ablex Publishing Corporation.

Meskill, C. J., Mossop, S., DiAngelo, R., & Pasquale, K. (2002). Expert and novice teachers talking technology: Precepts, concepts and misconcepts. *Language Learning and Technology*, 6(3), 46–57. <http://llt.msu.edu.vol6num3/meskill/default.html>

Rivers, W. M. (1968). *Teaching foreign-languages skills*. University of Chicago Press. [天満美智子 (訳) (1972). 『外国語習得のスキル』研究社.]

Yashima, T. (2000). Orientations and motivation in foreign language learning: A study of Japanese college students. *JACET Bulletin*, 31, 121–133.

- (17) 英文原稿では日本語の文献はヘボン式ローマ字で記載し、英訳をつける。
JASTEC Project Team (1986). Soki eigo gakushusha no tsuiseki chosa: Dai ippou [A study on the effects of early English learning: Report 1]. *JASTEC Journal*, 5, 48–67.

19. 原稿の審査、採否、原稿の種類(カテゴリー)の最終決定および掲載の時期は編集委員会が決定する。
20. 紀要の原稿の種類(カテゴリー)は、「学術論文」「学術研究資料」「実践報告と提言」のいずれかとする。「学術論文」(Articles)は、学術的に意義のある研究論文である。「学術研究資料」(Research Notes)は、英語教育の研究活動に役立つ調査内容を資料として提供するものとする。「実践報告と提言」(Practical Studies and Proposals)とは、教師が授業改善のためによいと考える方法を実践し、その結果を記述し、考察するものとする。
21. 原稿は採否にかかわらず返却しない。
22. 原稿料は支払わない。
23. 採用論文等の執筆者には抜き刷りを、予算に応じて贈呈する。
24. 校正については、初校は執筆者が行うが、この際の校正加筆は、原則として植字上の誤りに関するもののみとし、内容に関する加筆修正は認められない。また、必要に応じて書式等を編集委員会が修正することがある。

25. 原稿は以下の要領で投稿すること。

- (1) 投稿論文を E-mail に添付し、編集委員長のアドレスに送付する。
- (2) E-mail の件名は「JASTEC 研究紀要投稿論文」とする。
- (3) 投稿の期限は、各号で定められた期日の 20:00 とする。
期限を過ぎたものは、一切受理しない。
- (4) 提出するものは以下の通りである。
 - ・完成原稿 (Word)
 - ・査読用原稿 (Word)
 - ・査読用原稿 (PDF)
- (5) 査読用原稿の作成にあたり、執筆者を特定し得る情報はすべて XXXX に置き換えること。共著の場合は他の著者もまとめて XXXX とする。注において口頭発表した旨を示す場合や、謝辞において科研費情報等を掲載する場合も XXXX とする。

例 1：執筆者・共著者 A・共著者 B (2022). 『小学校の英語教育』 JASTEC 出版.
→XXXX (XXXX) XXXX

例 2：本稿は 2022 年に開催された XXXX 大会において発表したものに大幅な加筆修正を行ったものである。

例 3：本研究は科研費 (XXXX) の助成を受けたものである。

- (6) 上項(5)に関連して、自身の著作物 (XXXX に置き換えた文献) は文献リストの最後尾に列記する。その際、文字情報に戻した時にページ制限 (刷り上がり 16 頁以内) を超えることのないように留意する。

例 (自著が 3 本の場合) :

Rivers, W. M. (1968). *Teaching foreign-languages skills*. University of Chicago Press. [天満美智子 (訳) (1972). 『外国語習得のスキル』 研究社.]

Yashima, T. (2000). Orientations and motivation in foreign language learning: A study of Japanese college students. *JACET Bulletin*, 31, 121–133.

XXXX (XXXX) XXXX

XXXX (XXXX) XXXX

XXXX (XXXX) XXXX

- (7) 希望審査区分を「学術論文」、「学術研究資料」、「実践報告と提言」の 3 つのカテゴリから必ず 1 つ選び、投稿論文の 1 頁目左上 (表題の上) に表記すること。ない場合は受理しない。

例：【学術論文】 ※フォントサイズは 10.5 pt

- (8) 編集委員長が投稿論文を受理した後、(編集委員長が投稿者に) 返信のメールを直ちに送る。送信後 48 時間が経過しても受理した旨の返信メールが届かない場合は、再度連絡し、投稿論文の受理状況を確認すること。

- (9) 提出の際に、以下の情報をメール本文に記すこと。

- ① 著者名と所属 (共著の場合は全員分)
- ② 会員区分 (個人/団体/協賛)
- ③ メールアドレス
- ④ 電話番号
- ⑤ 口頭発表の有無 (ある場合はその詳細も含める)

2022年10月23日改定

※各号の提出先や期日は学会ウェブサイトにてご確認ください。また、原稿執筆の際には「JASTEC 研究紀要ひな形」をご利用ください。ご不明な点などありましたら、本部事務局にお問い合わせください。